

活動成果報告書

令和6年度（第28回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

仲間とともに楽しく保健師活動を
～市民の健康・幸福度向上をめざして～

グループ名称・氏名（グループの場合は代表者名）

横須賀市保健師『ポラリスの会』

代表者：小林 幸恵

勤務先：横須賀市役所

所 属：横須賀市 民生局 健康部 地域健康課

所在地：〒238-0046

神奈川県横須賀市西逸見町1-38-11

TEL：046-824-7141

FAX：046-824-7144



◇活動方針

横須賀市は、保健所設置市として、平成9年までは3つの保健所に保健師を配置し、様々な保健活動を展開してきました。しかし、地域保健法の改正とともに、3保健所を1か所に統合し、保健福祉部に新たな課や健康福祉センターの設置が行われ、保健師の分散配置を進めてきました。また、介護保険制度の開始に伴い、本庁への保健師の配置も進み、保健師の活動場所が多岐にわたるとともに、保健師数も増員されたという経過があります。保健師の活躍の場が広がる一方で、全世代の健康課題に対応するためには、日ごろから保健師活動をつなげておきたいという、先輩方の思いから、所属に捉われない横断的な交流は活発に行われてきていました。

横断的な交流を、交流だけにとどめず、自己研鑽や保健師としての技術の継承の場としていくために、改めてこの交流を任意団体として組織し、継続した活動ができるよう「横須賀市保健師ポラリス会」が平成16年度に立ち上がりました。この会の設立目的は、各所属の保健師が、部署は離れていても同じ方向を向いて活動することを目指しています。

「ポラリス会」という名称は、当時流行していたドラマ『冬のソナタ』で使われていた「道に迷ったらポラリス（北極星）を探す」というコンセプトに由来しています。この名称には、「場所が離れていてもひとりではない」「横須賀市保健師として、皆で同じ方向を見て活動する」「迷ったときには目指す場所を思い出してみる」という思いが込められ、現在も活動を継続しています。

◇活動内容とその成果

（1）活動内容

任意の親睦会ですが、現在は、保健師78人全員が加入し、親睦に加え、自己研鑽の場、人材育成の場にも寄与しています。役員は2年ごとに任命され、その役員が中心となり、年3回の全体の活動を企画・運営しています。主な活動は、情報交換会、勉強会、親睦会を年3回程度これまでに以下のような勉強会を行ってきました。（一部抜粋）

活動成果報告書

《情報交換会・勉強会》

・2013 年 11 月

「地域が動く保健師活動～保健師活動指針の改定をふまえて～」

日本看護協会 中板育美先生

・2014 年 11 月

「姉妹都市フランスブレスト市の職員交流（保健師派遣）報告会」

・2015 年 1 月

「保健師魂の継承～次世代へのバトンタッチ～」 平成 26 年度退職保健師 4 名

・2016 年 11 月

胃がん撲滅戦略研修会「胃がんリスク検診について」 中央内科クリニック 松岡幹雄院長

・2024 年 1 月

「広がる保健師の役割 ～保健師活動の昨今の動向と保健師活動の今を考える～」

現役保健師による事業報告や動向説明

・2025 年 1 月

「保健師の活動の歴史と保健活動を知る」

退職保健師 4 名

○退職保健師による保健師活動の歴史について

○保健師として生き生きと活動を続けるためのアドバイス

はじめての試みとして、保育士を配置し、子育て中の保健師の参加に考慮しました。

《保健師の部署横断的取り組み》

ポラリス会の活動から、保健師同士の顔の見える関係が維持でき、以下のように保健師が一枚岩になり部署横断的な取り組みを円滑に行うことが可能となっています。

① 地震等災害対応保健師活動連携会議の実施（2013 年度～）

地震等災害対応保健師活動マニュアルを活用し、毎年、年度当初に保健師全職員を対象とした会議を行っている。

② 地震等災害対応保健師活動及び風水害時自主避難所保健師活動検討ワーキング

平時からの備えとして検討担当者を配置し、マニュアルの見直し、研修会開催、災害時の物品管理、情報連携、地震等災害対応保健師活動連携会議を実施。

③ 保健師人材育成の取り組み

部署を超えたワーキングメンバーで研修案の作成及び研修を実施。「みんなで見守っている」というメッセージを届ける機会となっており、横須賀市への定着化を図っている。

④ 保健師活動指針の作成

平成 27 年 3 月に予防活動に主眼をおいた保健活動及び、健康なまちづくりに貢献することを目的として作成し、現在も指針を基本とした活動を行っている。

⑤ 「横須賀市保健師活動の経過」～保健師のあゆみ～の編纂

横須賀市保健師活動の「あゆみ」を次の時代に繋げようという声の中「横須賀市公衆衛生活動のあゆみ PART I」（昭和 12 年～平成 3 年）、「横須賀市公衆衛生看護のあゆみ PART II」（平成 4 年～平成 10 年）「横須賀市保健師活動のあゆみ PART III」（平成 11 年～平成 19 年）、「横須賀市保健師活動のあゆみ PART IV」（平成 20 年～平成 30 年）を編纂し発行した。時代や行政のニーズに応えてきた経過が確認でき、編纂を通じ横須賀市の保健師としての自覚と自己肯定感を持つ契機となっ

活動成果報告書

ている。

(2) 成果

社会情勢の変化、庁内の組織改編、保健師の活動領域の変化、および保健師の分散配置など、様々な変化がある中で、「ポラリス会」は他部署との情報交換の機会を提供し、広い視点を持ち、保健師として求められる役割を再認識する場となっています。この会を通じて、顔の見える関係や、年齢経験を超えて、助け合いながら保健師活動を行うことができます。保健師による部署横断的取り組みは、市の施策に組み込まれ、保健師活動の評価に結びついています。

特に、新型コロナウイルス感染症対応では、いち早く部署を超えて応援体制を構築し、保健所を支える役割を果たしました。全ての保健師が所属に関係なくコロナ対応に尽力しています。また、以前から進めていた大規模災害に備えた保健師の体制づくりやマニュアル作成が、令和6年1月の能登半島地震を契機に、保健師のみならず管理栄養士や歯科衛生士などの専門職の活動についての議論を開始することへとつながりました。今後は、多職種連携チームとしての大規模災害に備える体制の強化を図ります。災害を含む健康危機管理における保健師の役割が全庁的に評価されているのは、平時から自身の役割を考える機会を作り、専門職としてのつながりを大切にしてきたからだと考えています。平時からの備えに必要性を自覚し、地域の健康課題にどう向き合うかを常に意識できる、そんな保健師風土が自然と築かれています。

さらに、令和7年1月には「保健師の活動の歴史と保健活動を知る」と題し、退職保健師による講義が行われました。保健師活動の歴史や生き生きと活動するためのアドバイスが、疲弊感を覚える保健師や、ワークライフバランスの取り方に悩む保健師たちをエンパワーする機会となりました。保健師として大切にしたいエッセンスについて改めて考える機会が生まれました。

今回の活動は、どうしても夜に集合せざるを得ないことが多い中で、保育コーナーを設置し、子育て中の保健師も参加しやすいよう工夫しました。先輩保健師と共に子育て中の不安を相談しやすくなり、成長を共に喜べるといった効果が期待されています。

保健師に求められることは、より多岐にわたります。しかし、「住民の健康を守り、地域を健康にしたい」という共通の思いを分かち合いながら、予防活動や臨機応変な対応力を身に付け活動を続けていきたいと思います。「ポラリス会」は、先輩保健師がどのような気持ちで仕事に取り組んできたかを知り、語り継いでいく場でもあります。先輩からのバトンを受け継ぎ、次のバトンタッチを行う走者であることを意識し横須賀市保健師78人が一丸となって、楽しみながら保健師活動を行っていききたいと思います。

◇今後の計画

令和6年度から7年度にかけて、人材育成計画の再構築や感染症対策や災害対策の対応力の強化を目指した研修会を予定しています。